

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」



特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

教室を飛び出してしまう子どもへの対応

1 飛び出す理由

- (1) 授業の内容が分からなかったり、興味をもてなかったりして飛び出す。
- (2) 校内外の刺激が気になり、衝動性が抑えられなくて飛び出す。
- (3) 友達に嫌なことを言われたことがきっかけとなり、衝動的に飛び出す。

2 三つの注意点

- (1) 力づくで押さえつけない。
- (2) 教室から勝手に出ることを黙認しない。
- (3) 追いかけてごっこをしない。



3 有効と思われる対応（飛び出すことを当たり前にしない！）

- (1) 授業の内容が分からなかったり、興味をもてなかったりして飛び出す場合
 - ・子どもが授業に参加しやすくするために、授業の内容を分かりやすく調整したり、読み方や書き方等へ個別の配慮を行ったりする。
 - ・授業に集中できるように、その子の好きな分野や得意なやり方を取り入れる。
- (2) 衝動性が抑えられなくて飛び出す場合（授業に不必要な刺激をなるべく減らす）
 - 【どこへ行ってしまうか分からない場合】
 - ・事前に行って「よい場所」を決めておく。居場所カードを自分で黒板に貼ってから行くこと、戻ってくる時間を約束することなどを本人と相談しておく。
 - ・飛び出しそうになったときは、職員室にチョークをもらいに行くなど、意図的に用事を頼んで身体を動かす機会を設定する。
 - 【いつ出て行ってしまうか分からない場合】
 - ・「〇〇室に行ってもいいですか」と、先生の許可を求めてから出ていくようにする。
 - ・許可を得ることが定着してきたら、「あと10分たったら行っていいよ」「教室を離れていいのは1日3回まで」と条件を決める。（あくまでも決定権は教師！）
 - ・ルールを守れなかった場合は、その都度、譲らない姿勢でルールを確認してやり直しをする。守れた際は「約束を守ったね、先生の話聞いたね」などとはめる。

4 保護者との連携

- ・保護者面談を実施し、学校での目標と手立てを伝え、短いスパンで評価・改善を行い、変容やうまくいった支援を共有する。
- ・医療機関にかかっている場合は、主治医に学校での様子を伝えてもらい、対応を一緒に考える。服薬している場合は、保護者の同意を得て、受診時に同行する機会を設ける。

子どもの興味・関心あるもので会話を広げたり、一緒に遊んだりして信頼関係を築くことも大切です。「子どもはルールよりもラポールに従う！」



とれたて直送便



「発達障害の僕が輝ける場所を見付けられた理由」



- ・タレントでモデルの栗原類さんは、ニューヨークに住んでいた8歳の頃にADD（注意欠陥障害）と診断を受けました。強いこだわりがある、注意力散漫で忘れ物が多い、人の心の動きを読み取るのが難しいなどの特性がありました。しかし、彼が輝ける場所を見付けられた理由は、「そのままで大丈夫だよ」と励ましてくれた母親の存在、障害をオープンにできたアメリカの環境が影響しています。心の支えになってくれる人の存在と周囲の理解、そして、本人の正しい自己理解が、社会で自分の役割を果たすことにつながります。